

多久 議会だより

2021
令和2年
11月定例会
第47号

特集！ ケーブルテレビ・YouTubeを使った議会報告会



議会報告会	P2～5
審査報告	P6～7
議案質疑	P8
一般質問	P9～12
反対・賛成討論	P13
まちで発見！	P14

東多久公民館でのしめ縄づくり



多久の歴史 旧石器～古墳時代

今までは江戸時代後期から、明治・大正時代の多久市の偉人を皆さんにご紹介していましたが、今回から、意外に知らないかもしれない多久の古代史について紹介したいと思います。

鬼の鼻山は安山岩(サヌカイト)の産地で、この北麓に多数の大型尖頭器をはじめとする石器製作遺跡が存在しており、多久市の旧石器時代遺跡の特徴を示しています。その中でも茶園原遺跡、三年山遺跡は九州を代表する遺跡として有名です。

綿打遺跡と四下大丹遺跡からは縄文時代早期の押型文土器が出土し、岡遺跡や西ノ原西遺跡は、扇状地に立地する縄文時代後期の集落であると考えられ、さらに、牛津川に面した長尾倉富遺跡、両子山中腹にある天山遺跡からは縄文時代晩期の遺物が出土しています。

牟田辺遺跡は、まとまった住居跡や墳墓が確認され、同集落が弥生時代中期の多久盆地における拠点集落であったと考えられており、他にも、撰分遺跡からは竪穴住居跡、鴻ノ巣遺跡からは鉄製手斧の刃先な



茶園原遺跡尖頭器

ど弥生鉄器、また、原田遺跡では弥生時代の甕棺墓などと祭祀遺構からなる墓地が発見されています。

古墳時代の主な集落遺跡は、羽佐間四反田遺跡、久保田遺跡、摺ヶ本遺跡、今出川A遺跡、撰分遺跡などがあり、確認されている古墳の規模は径10m前後の約150基が認められ、このような小円墳は群集墳と呼び、山の上古墳群は、その代表的なもので、その石室には線刻画が認められ、古墳からは、武器・馬具・農工具・装身具、須恵器・土師器等が出土しています。



牟田辺遺跡弥生土器甕棺他

このように、古代に目を向ければ、多久では、石器製造の素材となる安山岩が豊富に産することで、旧石器・縄文時代には人の営みが始まっていたとみられ、日本最大規模の石器工房群があったと分析評価されています。

全国で初めて全容が分かる 獅噛(獣面)文帯金具



出土遺物を基にした帯金具の全体復元写真
※金具の間隔は正確なものではありません。

【画像提供：多久市郷土資料館】

牟田辺前方後円墳からは三環鈴、五鈴杏葉、獅噛(獣面)文帯金具、鉄器、勾玉・管玉、須恵器など貴重な遺物が出土しました。

出土遺物から、この古墳は5世紀後葉～6世紀前葉頃に造られたと考えられます。



南多久 牟田辺前方後円墳

【画像提供：多久市歴史資料館・多久市文化財発掘事務所】

UD FONT

見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています。

VEGETABLE
OIL INK

環境に優しい植物油
を使用しています。

委員 香月 正則	委員 野北 悟	委員 樺島 永二	副委員長 古賀 公彦
委員 鷺崎 義彦	委員 田淵 厚		

